



パッケージ印刷市場での さらなる成長を選択するからこそ スピードマスターCD102-6+L LE UV

- ・薄紙から厚紙まで安定した用紙搬送
- ・ベタ表現をはじめ、厳しくなる品質要求に対応
- ・加速する短納期需要に対応する UV 印刷機

下請け中心の会社から様々なメディアを使いこなす広告会社に変革
東京都新宿区に本社を構える株式会社共栄メディアは、商業印刷、POP、パッケージ印刷をビジネスの主軸とし、さらにはデジタルコンテンツ開発、デジタルサイネージ、ノベルティ、Tシャツプリント事業など、セールスプロモーション領域のニーズに幅広く対応する広告会社です。その歴史は1978年に創立した製版会社の共栄プロセス株式会社に始まり、モノクロ製版からカラー製版に移行した後、1989年に色校正事業として設立された株式会社共栄校正と合併することによって、1998年に共栄メディアが誕生しました。

「それまで製版、校正という言葉が入った社名であったため、こちらが望んでも製版から印刷、加工、さらにはクライアントのマーケティングサポートといった幅広い範囲で仕事をいただくことができませんでした。それを打開するため合併を期に、様々な媒体（メディア）にフレキシブルに展開できる会社という意味を込めて、共栄メディアという社名に変更しました。」と代表取締役社長の錦山慎太郎氏は話します。



使いやすさと品質において高い評価を得る スピードマスター CD102-6+L LE UV

- ・実績あるスピードマスター XL106 の技術を継承。
- ・0.03mm の薄紙から 1.0mm の厚紙までに柔軟に対応。
- ・非接触のエアランスファーにより安定した用紙搬送を実現。
- ・インテリスタートによるナビゲーションでオペレーションが容易。
- ・分光光度計イージーコントロールにより、基準値印刷が可能。
- ・3種類の UV 装置から選択が可能。パウダーによるエラーが解消。



代表取締役社長
錦山 慎太郎 様

会社が合併し、名称が変わったことをきっかけとして狙いどおり業務内容にも変化が生まれました。それまでは印刷会社の下請け仕事を中心でしたが、電気製品や食品、車関連メーカーなどの一般企業や広告代理店、学校などから、企画から始まり、デザイン、印刷物、さらに印刷物以外の販促物など幅広い受注が増えていきました。

「合併前はポスターやカタログなどの商業印刷をメインに生産していましたが、徐々に競争いや価格競争が激化していきました。その一方、時期を同じくして厚紙の仕事が増えて来たこともあり、厚紙の印刷・加工のノウハウを持っていたパートナー会社を M&A することによって、現在の生産体制を築いていきました」と錦山社長は話します。

薄紙から厚紙まで、つねに安定した使いやすさが導入の決め手に

M&A の時点で稼働していた印刷機は、導入から 20 年以上が経過していることから老朽化が進行しており、思うような品質が得られないことも多く、全量検品が必要になるなど効率が悪かったため設備投資を検討しました。厚紙の仕事が増え、後加工が絡むものも多かったこと、さらには現在受注の中心を占めている POP、什器関係に加えて、先々には製品を納める箱・パッケージの受注強化を視野に入れていることから、次期設備は厚紙の印刷に強く、後加工へすぐに仕事が回せる UV 印刷機にしよう当初から決めていました。設備の選定時を振り返り、錦山社長は次のように語っています。「今後の成長を見据えた設備投資でしたので、慎重な比較検討をするために色々なメーカーの設備を見させていただきました。その中でスピードマスター CD102 に決めたのは、様々な印刷をする際にも用紙搬送が安定していて、オペレーションしているスタッフ達が「使いやすい」と評価したことが最大の理由です。さらには検討時に工場を見せていただいたユーザー企業の方々からの評価が高かったことも一因となりました」。

こうした検討を経て、もともと工場稼働していた 4 色機と 6 色機を出し、ニスコーターと LE UV を搭載した菊全判 6 色印刷機のスピードマスター CD102 が導入されました。導入後、印刷機は順調に稼働し、近年厳しさが増している品質面や短納期の要求にも対応できるようになりました。いち早くスタートしていた印刷の標準化も功を奏し、前準備においても 100 枚程度で OK シートが出せ、さらには乾燥待ちがなくなったことにより時間も大幅に削減できています。同時に工場内のスペースが有効活用できることから、以前に比べ効率的に業務を進めやすくなりました。



SPセンター 生産部 戸田工場 工場長 松本 茂樹 様

また、M&A により異なる会社がひとつになったため、製造部門の一部では、定期メンテナンスを行う決まりや習慣がないようなこともあった会社ですが、設備導入をきっかけにそうしたメンテナンスについてのルールも統一しました。SP センター 生産部 戸田工場 工場長を務める松本茂樹氏は話します。「以前は仕事に忙殺され、なかなか時間が取れませんでした。結局はツケが回ってくることになります。特に今回は UV 印刷機ということもあり、メンテナンス不足によるローラートラブルなどの様々な事例も聞いていますので、一定の稼働日数を基準としてスケジュールを組んだ上で、定期的なメンテナンスを行っています」。

パッケージ印刷を超えた、さらなる事業拡大を目指す

現在ではセールスプロモーション分野の仕事が全体の約 7 割を占め、事業の柱となっている会社ですが、今後はパッケージ分野の強化によるさらなる成長を目指しています。「現在のところ、POP や什器の印刷が最も多くなっていますが、時代が進みコミュニケーションや販売手法が変化する中においては、物品の販売形式にも大きな変化が生じ、POP など店頭展示用のアイテムは減少する可能性があると考えています。その点、製品そのものを納める箱・パッケージは販売形式による影響を受けにくく、クライアントの皆さまもさらなる差別化のために今後も力を入れていく分野だと思っております。さらに強化しボリュームを増やしていきたいと考えています」と今後の展望について錦山社長は語ります。同社はまた、今後より規模が拡大していくデジタル化の時代において、その変化にいかに対応していくかに関心を寄せています。同社の強みであるデータ制作を中心に置き、その時々需要に合わせてデジタルコンテンツとして配信していく、または印刷メディアとして展開していくなど、都度最適なメディアを使い分け、組み合わせることで現在にはない市場を創造し、事業のさらなる強化を目指しています。



株式会社共栄メディア

本社：〒162-0801 東京都新宿区山吹町 306 共栄本社ビル
TEL：03-3267-6068
FAX：03-3267-2385
<https://www.kyoeimedia.co.jp/>